

女性の胸の大きさとその人に対する魅力およびイメージ評価

—胸の大きな女性は得か損か—

変態学研究所

従来の研究では、女性の胸の大きさは、その人の魅力やイメージを評価する上で重要な判断要素であることが示されてきた。しかし、これまでの研究では、胸の中程度に大きな女性は魅力的と評価されやすいということを示してきたものの、胸の大きな女性に対するネガティブなイメージについてはほとんど検討されてこなかった。また先行研究の多くは西欧文化に属する社会でなされたものであり、それらの知見が日本に適用し得るかは不明確である。そこで本研究ではこのような先行研究の不足に対応するべく、胸の大きさを変えた 3D モデルの女性の画像を提示し、魅力およびイメージの評価を求めた。その結果、胸の大きな女性は、「頭が良い」の得点が低く、「誰とでもセックスをしそう」の得点が高いなど、ネガティブなイメージを付与されることが示された。また、魅力評価についても、中程度の胸が概して最も高く評価されており、大きな胸の得点は高くなかった。これらのことから、胸の大きな女性は、ネガティブなイメージ（偏見）を付与され、魅力も高く評価されないことから、胸の大きさは必ずしも得なことばかりでないことが示唆された。

1. 序論

1.1 胸の大きさと魅力

現代の日本社会において女性の胸の大きさは女性の魅力を判断する上で重要な要素とされているように見受けられる。実証的にも、アイトラッキングを用いた研究では、男性が女性の魅力評価をするよう求められた場合には、まず胸に視線が向けられることが多いことが示されている (Cornelissen, Hancock, Kiviniemi, George, & Tovée, 2009; Dixon, Grimshaw, Linklater, & Dixon, 2011a)。

このように胸の大きさが高く評価される事象は学問的にも注目されており、これまで非常に多くの研究が行われている。それらの研究には、用いられている手法の点で多少の相違は見られるものの、依拠している結論および依拠する枠組みについては、概ね一致している。

まず、実証研究の結論について述べると、最も好まれる胸の大きさは、過度に小さくも大きくもない、中程度の大きさであることが繰り返し報告されている (Dixon, Duncan, & Dixon, 2015; Gründl, Eisen

mann-Klein, & Prantl, 2009; Swami & Tovée, 2013a, 2013b; Zelazniewicz & Pawlowski, 2011)。

次に、このような結果を解釈するための枠組みとして先行研究が依拠している枠組みについて述べると、その枠組みとして最も頻繁に用いられているのは、進化心理学である (e.g., Gangestad & Scheyd, 2005; Kościński, Makarewicz, & Bartoszewicz, 2020)。進化心理学は、人間が進化の中で培ってきた様々な傾向性が現代の社会においても残存しており、そのような傾向性が人間の行動を規定すると論じる (Tooby & Cosmides, 2015)。このような進化心理学の観点からは、女性の胸の大きさがその魅力を高く評価することにつながるという事象も進化の観点から理解されるべきということになる。そして、この観点から理解した場合、小さな胸よりも中程度の胸が好まれるのは、小さな胸と比べて中程度の胸の方が自分の子孫ないし遺伝子を残す能力を有することを示唆する程度がより大きいからである。実際、胸の大きな女性はそうでない女性と比べてその生殖能力および子育ての能力が高く評価されることが示されている (Dixon et al., 2015)。そして、大きな胸よりも中程

度の胸が好まれるのは、大きな胸の維持には自身の胸の維持に資源を割く必要があるため (Gangestad & Scheyd, 2005), 相対的に生殖に割ける資源が減少し、結果として大きな胸は子孫ないし遺伝子を残す能力を有することを示唆する程度が低くなるためである。以上のように、進化心理学に基づけば、中程度の胸が好まれるという結果は、子孫ないし遺伝子を残す能力を示唆する程度という観点から理解・説明されることになる。

1.2 「巨乳評価の二元性」

ここまで述べてきたように、胸の大きな女性は必ずしも魅力的とばかり評価されるわけではない。このことは実社会における女性の体験にも反映されている。たとえば、ある報道 (J-Cast ニュース, 2017) には、「大きな胸」を持つ女性の悩みとして、「そんなに大きいのに母乳が出ないのか！」と夫や義父から叱責され傷ついたという体験談が掲載されている。

この体験談が示唆するように、女性の胸の大きさは、その人の魅力を高く評価させるというポジティブな側面を有するが、それと同時にネガティブなイメージを発生させるといったネガティブな側面も有する。本論文ではこのような現象を、「巨乳評価の二元性」と呼ぶ。

この巨乳評価の二元性の存在は実証研究によっても確認されている。ネガティブなイメージとして特に取り上げられてきたイメージの中には、性的奔放性 (Furnham, Dias, & McClelland, 1998), 知性や能力, 道徳性 (Kleinke & Staneski, 1980) などがある。これらの結果を要約すると、胸の大きな女性は、性的に奔放で (つまり短期間の性的関係を形成することに好意的であり)、知能や能力, 道徳性が低いというイメージを持たれやすいことが示されている。

1.3 先行研究の限界

このような巨乳評価の二元性は、従来の研究において依拠されてきた進化心理学からは説明しにくいように思われる。すなわち、進化心理学は胸の大きさに起因する魅力評価を生殖能力を示唆する程度に還元して理解するが、このような理解からは、胸の大きな女性が魅力的と思われぬ理由は説明されるものの、かえってネガティブなイメージまで持たれてしまう理由は説明しにくいように思われる。そし

て、このようなネガティブなイメージについては、魅力と比べれば検討されることが少なく、研究が手薄である。

胸が大きい (あるいは小さい) という身体的な特徴のみに基づいて特定のイメージを持たれることは、当人に帰責されるべきでない特徴によって評価をされるということであり、このような評価の影響は極力低減されるべきである。そして、そのためには、まずそのようなネガティブなイメージを持たれるという事象が本当に存在するのかを検討する必要がある。

また、第二の限界として、先行研究が行われてきた地域が限定されていることが挙げられる。つまり、従来の先行研究の多くは、イングランド (Swami & Tovée, 2013a), ニューージーランド (Dixon et al., 2015), ポーランド (Kościński et al., 2020) など西欧文化圏に属する社会においてなされてきた。これは理論的には進化心理学は人間の生物学的規定要因を重視する理論であるため、その理論に基づく限り文化差を検討する意義は薄いこと、実践的には単純にそれらの文化に属する研究者が多いことに起因すると思われる。しかし、Dixon, Vasey, & Sagata, Sibanda, Linklater, & Dixon (2011b) では、ニューージーランド、パプアニューギニア、サモアでは理想的とされる胸の大きさに相違があることが見出されている。このような結果を考えれば、進化心理学の前提を無批判的に前提とするのでない限り、先行研究の知見が日本にも一般化し得るか (つまり、日本においても中程度の胸の女性が好まれるのか、そして胸の大きさにはどのようなイメージが付与されるのか) については、検証をしておく必要があると思われる。

1.4 本研究の目的

そこで本研究では、胸の大きさを5段階に変えた女性の3Dモデルの画像を用意し、それらの画像について、どの程度魅力的だと感じるか、どのようなイメージがどの程度付与されるかを検討することを目的とする。

回答を求める魅力評価については、先行研究では、「結婚の相手として」魅力的や「恋愛の相手として」魅力的など、魅力を細かく区別した上で回答を求めることが多い (e.g., Kościński et al., 2020)。胸の大きな女性に対しては、性的に奔放であり (Furnham et al.,

1998), 知能が高くない (Kleinke & Staneski, 1980) というネガティブなイメージが付与されるという先行研究の結果を考えれば, たとえば短い関係を想定した「恋愛の相手として」は魅力的だが, 「結婚の相手として」は魅力的でないといった評価がなされる可能性がある。このことを考えれば, 魅力を細分化することは適当であると思われる。そこで本研究でも, これらの先行研究に従い, 「恋愛の相手として向いている」, 「結婚の相手として向いている」, 「身体的に魅力的である」, 「人間として魅力的である」の4つを設定した。

また, イメージ評価については, 先行研究の多くが進化心理学に依拠しており (e.g., Kościński et al., 2020), 進化心理学が生殖に特化した理論である以上, 生殖に関わるイメージは含めておく必要があると思われる。このような観点から, まず, 「子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう」, 「母性がありそう」の2つを設定した。また, ネガティブなイメージについて検討した上述の先行研究 (Furnham et al., 1998; Kleinke & Staneski, 1980) に基づき, 「誰とでもセックスをしそう」, 「頭が良さそう」の2項目を設定した。さらに, 胸の大きな女性については, しばしばその「包容力」を強調した言説がなされることがあるように思われることから, 「包容力」の逆である「気の強さ」に関わるイメージとして, 「気が強そう」を設定した (変数の一覧については, 後掲の Table 1 を参照)。

なお, 3D モデルについては, 従来の研究では実写風のリアルな画像が提示されてきた (e.g., Dixon et al., 2015)。しかし, 日本の現状では, 胸の大きな女性を描いた画像が問題視されるなど (これについては変態学研究所 (2020) を参照), アニメ調の画像における胸の大きさはしばしば問題とされてきた。このことを考えると, 胸の大きさの魅力およびイメージ評価に実写調とアニメ調の画像で差があるのかを検討することには価値があると思われる。そこで本研究では, 実写調とアニメ調の画像を用意し, それぞれについて評価を求めることとした。

また, 回答者に提示される画像については, 全裸の女性の画像を提示する研究 (Dixon et al., 2011b, 2015) と, 水着などの薄手の服を着せた画像を提示する研究 (Swami & Tovée, 2013; Kościński et al., 2020) がある。全裸の方が胸の大きさが魅力やイメージに

より強い影響を及ぼすと考えられるが, 実際の日常生活の対人関係において全裸の女性の魅力やイメージを評価する場面は通常多くないと考えられる。とすれば, 全裸の女性の画像を提示して回答を求めることは生態学的妥当性を低める。そのため本研究では, 薄手の T シャツを着せた画像を提示することとした。

2. 方法

2.1 調査手続きと調査協力者

クラウドワークサービスを運営するクラウドワークス社に依頼し, そのワーカーに回答を依頼した。具体的には, 筆者が質問ページを Google フォームによって作成し, その質問ページをクラウドワークス上の募集ページに掲載した。年齢や性別等の属性による回答制限は設けなかった。また, 倫理的配慮として, 質問ページの冒頭で本調査が性的にセンシティブな内容を含むこと, およびそのような内容を不快に思う方は回答を控えてもらうよう記載した。結果得られた 79 名 (女性 51 名, 男性 28 名, 平均年齢 37.22 歳, $SD=8.26$) のデータを分析の対象とした。

2.2 質問ページの内容

2.2.1 3D モデルの設定 質問ページでは, 上述の通り, アニメ調の 3D モデルの画像と, 実写調の 3D モデルの画像を提示し, それらのモデルの胸の大きさについては, 特小, 小, 中, 大, 特大という 5 つの胸の大きさを設定した。

これらのモデルは, アニメ調については V カツ (<https://vkatsu.jp/>) によって作成され, 実写調については Honey Select 2 (http://www.illusion.jp/preview/honey2_dx/index.php?0828WVs4) によって作成された。前者は基本無料のサービスであり, 後者は有料のソフトである。実際に使用されるモデルについては, アニメ調については, 変態学研究所所長のモデル, 実写調についてはデフォルトのモデルを使用した。

それぞれのサービスないしソフトでは, モデルの胸の大きさを数値で自由に変更することができる。しかし, アニメ調と実写調では, 数値の設定が異なり, 同じ数値にした場合には見た目上明らかに胸の大きさが異なるものになることが使用中に分かったため, 基本的にはこの数値に従いながらも, 見た目



Figure 1 提示した3Dモデルの一覧

注) 上段はアニメ調, 下段は実写調。左から順に, 特小, 小, 中, 大, 特大。

上の大きさが等しくなるよう工夫した。具体的には、共同研究者の1人が概ね胸の大きさが同じと見受けられる画像を作成し、それをその他の共同研究者3人が確認するという手続きがとられた。

これらの手順で作成された10枚の画像(アニメ調か実写調かという2条件×胸の大きさの5条件)が回答者に提示された。実際に提示された画像をFigure 1に示す。

2.2.2 イメージについての質問 提示された画像につき、イメージを尋ねた。これらのイメージに際しては、進化心理学に関する上述の議論などを参考にしつつ、魅力や生殖に関するイメージや、先行研究で検討されているその他のイメージを含めた。

魅力に関するイメージとしては、「恋愛の相手として向いている」、「結婚の相手として向いている」、「身体的に魅力的である」、「人間として魅力的である」を尋ねた。

生殖に関するイメージとしては、「子どもを産んだ

り育てたりすることに向いていそう」、「母性がありそう」、「誰とでもセックスをしそう」を尋ねた。

その他のイメージとしては、「頭が良さそう」、「気が強そう」を尋ねた。

これらの9項目について、「この画像の女性についてあなたが持つイメージは以下の文章にどの程度当てはまりますか」と教示した上で、「全く当てはまらない」(1)から「非常に当てはまる」(5)の5件法での回答を求めた。

3. 結果

それぞれのイメージの程度がアニメ調か実写調か、そして胸の大きさによって異なるかを検討するため、アニメ調か実写調か(以下この要因を「アニメ/実写」と表記する)、および胸の大きさを参加者内要因、回答者の性別を参加者間要因とする3要因混合計画の分散分析を行った。記述が煩雑になるため、以下本文では胸の大きさの主効果に関する結果のみを記

述し、交互作用の結果は【付録】に記載する。分析の結果は変数が多く理解が多少難しいと思われるため、結論のみを把握したい読者には次章【考察】の箇所のみを（Table 1）から読むことを勧める。

3.1 魅力評価について

胸の大きさの主効果は、「恋愛の相手として向いている」($F(4, 312)=23.85, \eta_p^2=.24, p<.01$)、「結婚の相手として向いている」($F(4, 312)=27.65, \eta_p^2=.26, p<.01$)、「身体的に魅力的である」($F(4, 312)=37.51, \eta_p^2=.33, p<.01$)、「人間として魅力的である」($F(4, 312)=34.35, \eta_p^2=.31, p<.01$)のすべてのイメージについて有意であった。アニメ調/実写調の主効果は「結婚の相手として向いている」のみが有意であった($F(1, 78)<4.98, \eta_p^2<.06, p=.03$)。そこで、4つのイメージに対する胸の大きさの効果について、多重比較を行った（有意水準の調整はHolm法による。以下同様）。

その結果、「恋愛の相手として向いている」の水準間の差については（Figure 2），胸の大きさが特小と小($t(77)=1.25, d=.11, p=.22$)，小と中($t(77)=1.99, d=.14, p=.05$)以外のすべての水準間で有意な差が見られた($ts(77)>2.63, ds>.25, ps<.01$)。最も差が大きかったのは、中と特大の差であった($t(77)=7.59, d=.83, p<.01$)。

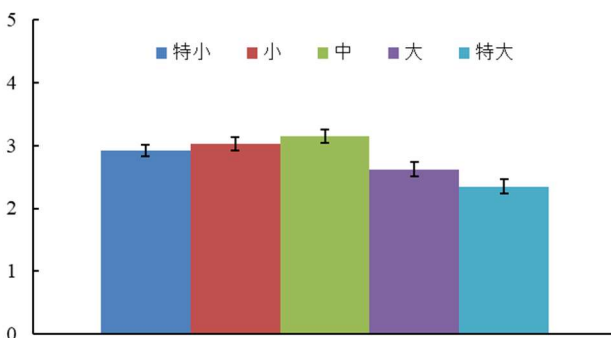


Figure 2 胸の大きさごとの「恋愛の相手として向いている」の得点

「結婚の相手として向いている」の水準差については（Figure 3），特小と小($t(77)=0.58, d=.05, p=.56$)，特小と中($t(77)=1.99, d=.19, p=.05$)，小と中($t(77)=2.23, d=.14, p=.03$)以外のすべての水準間で有意な差が見られた($ts(77)>3.17, ds>.44, ps<.01$)。最も差が大きかったのは、中と特大の差であった($t(78)=8.09, d=.98, p<.01$)。最も差が大きかったのは、

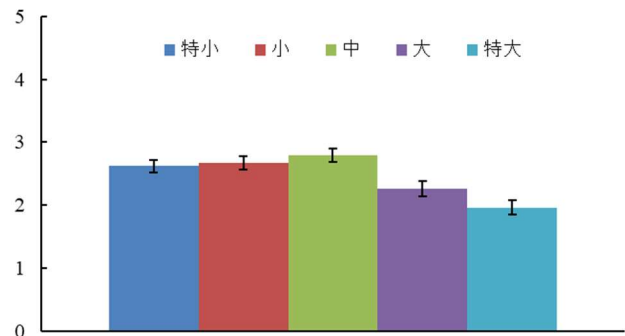


Figure 3 胸の大きさごとの「結婚の相手として向いている」の得点

中と特大の差であった($t(77)=8.09, d=0.98, p<.01$)。

「身体的に魅力的である」の水準差については（Figure 4），特小と大($t(77)=1.50, d=0.24, p=.14$)以外のすべての水準間で有意な差が見られた($ts(77)>4.31, ds>0.34, ps<.01$)。最も差が大きかったのは、中と特大の差であった($t(77)=9.27, d=1.37, p<.01$)。

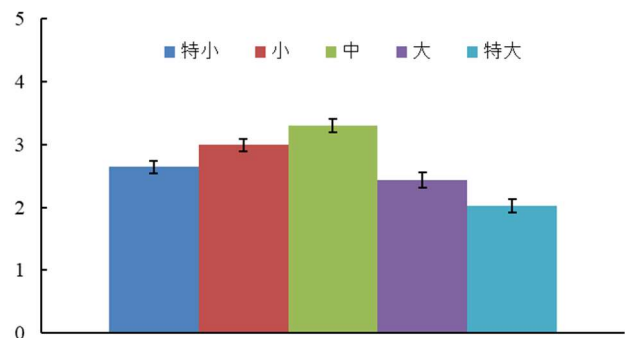


Figure 4 胸の大きさごとの「身体的に魅力的である」の得点

「人間として魅力的である」の水準差については（Figure 5），特小と小($t(77)=0.04, ds<.01, p=.97$)，特小と中($t(77)=0.73, ds=.07, p=.47$)，小と中($t(77)=1.07, ds=.07, p=.29$)以外のすべての水準間で有意な差が見られた($ts(77)>3.83, ds>.31, ps<.01$)。最も差が大きかったのは、中と特大の差であった

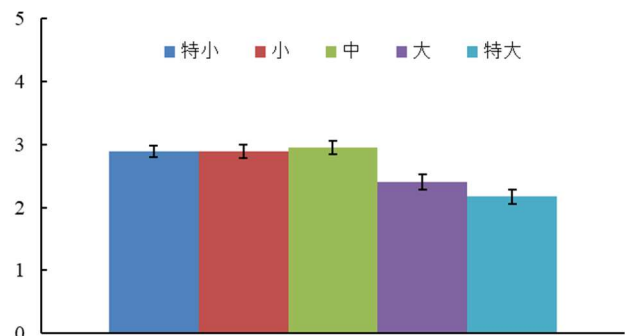


Figure 5 胸の大きさごとの「人間的に魅力的である」の得点

($t(77) = 8.14, d = 1.04, p < .01$)。

3.2 生殖に関するイメージについて

アニメ／実写の主効果は、「子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう」($F(1, 77) = 19.78, \eta_p^2 = .20, p < .01$), 「母性がありそう」($F(1, 77) = 7.34, \eta_p^2 = .09, p = .01$), 「誰とでもセックスをしそう」($F(1, 77) = 5.00, \eta_p^2 = .06, p = .03$) のすべてのイメージについて有意であった。胸の大きさの主効果も「子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう」($F(4, 308) = 7.16, \eta_p^2 = .09, p < .01$), 「母性がありそう」($F(4, 308) = 5.56, \eta_p^2 = .07, p < .01$), 「誰とでもセックスをしそう」($F(4, 308) = 21.57, \eta_p^2 = .22, p < .01$) のすべてのイメージについて有意であった。そこで、3つのイメージに対する胸の大きさの効果について、多重比較を行った。

その結果、「子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう」の水準差については (Figure 6), 最小と小 ($t(77) = 3.31, d = .28, p < .01$), 特小と中 ($t(77) = 5.81, d = .56, p < .01$), 小と中 ($t(77) = 3.38, d = .29, p < .01$), 中と大 ($t(77) = 4.01, d = .39, p < .01$), 大と特大 ($t(77) = 2.86, d = .18, p = .01$) の差が有意であった。

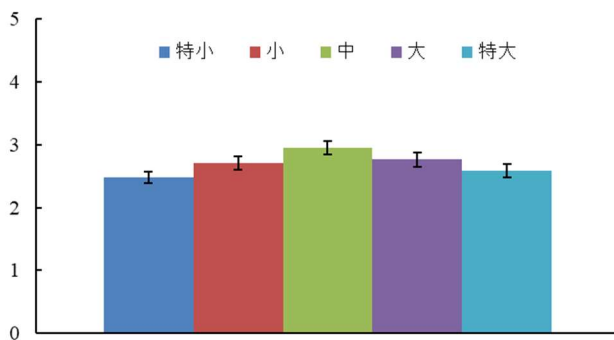


Figure 6 胸の大きさごとの「子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう」の得点

「母性がありそう」の水準差については (Figure 7), 特小と中 ($t(77) = 3.98, d = .48, p < .01$), 小と中 ($t(77) = 3.22, d = .26, p < .01$), 中と特大 ($t(77) = 3.79, d = .37, p < .01$) の差が有意であった。

「誰とでもセックスをしそう」の水準差については (Figure 8), 中と大 ($t(77) = 2.42, d = .22, p = .02$), 中と特大 ($t(77) = 1.38, d = .14, p = .17$), 大と特大 ($t(77) = 0.97, d = .06, p = .34$) の差が有意であった。

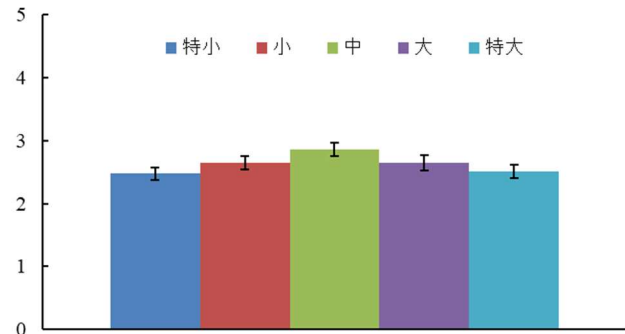


Figure 7 胸の大きさごとの「母性がありそう」の得点

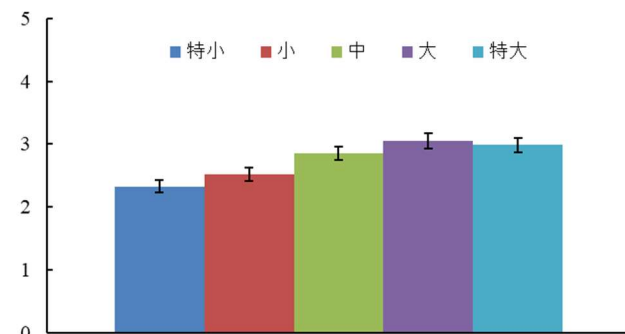


Figure 8 胸の大きさごとの「誰とでもセックスをしそう」の得点

3.3 その他のイメージについて

胸の大きさの主効果は、「頭が良さそう」($F(4, 308) = 49.98, \eta_p^2 = .39, p < .01$) と「気が強そう」($F(4, 308) = 2.81, \eta_p^2 = .04, p = .04$) のどちらのイメージについても有意であった。他方、アニメ／実写の主効果は有意でなかった ($F_s(1, 77) < 3.00, \eta_p^2_s < .04, p_s > .09$)。そこで、2つのイメージに対する胸の大きさの効果について、多重比較を行った。

その結果、「頭が良さそう」の水準差については (Figure 9), 特小と小 ($t(77) = 0.28, d = .02, p = .78$), 特小と中 ($t(77) = 2.01, d = .19, p = .05$) 以外のすべて

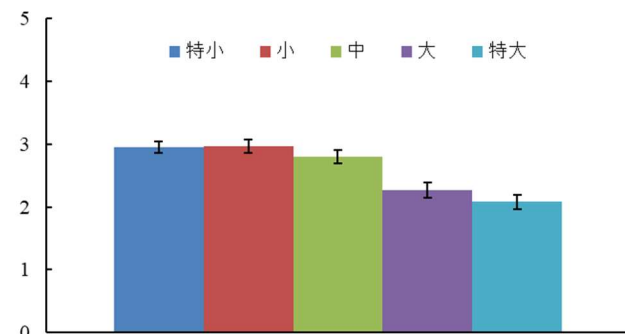


Figure 9 胸の大きさごとの「頭が良さそう」の得点

の水準間で有意な差が見られた ($t(77)=2.62, d=.21, p=.01$)。最も差が大きかったのは、小と特大 ($t(77)=2.42, d=.22, p=.02$) の差であった ($t(77)=8.81, d=.1.13, p<.01$)。

「気が強そう」の水準差については (Figure 10), 有意水準の調整を行うと、すべての水準間で有意な差は見られなかった ($t(77)<2.30, ds=.27, ps<.02$)。

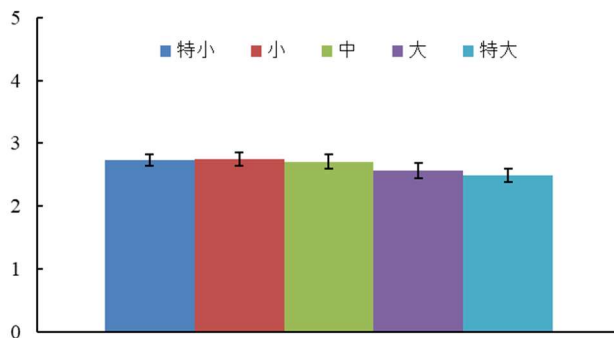


Figure 10 胸の大きさごとの「気が強そう」の得点

4. 考察

本研究では、胸の大きさと魅力およびイメージ評価の関連を検討するため、胸の大きさが異なる女性の画像を提示し、それぞれの画像について魅力およびイメージの評価を尋ねた。分析の結果をまとめたのが、Table 1 である。以下では、魅力、生殖イメ

ジ、その他のイメージという区分に沿って得られた結果を要約し考察する。

4.1 魅力評価について

まず魅力評価については、大きな胸および特大の胸は中程度以下の胸と比べて魅力を低く評価される傾向にあった。しかし他方で、特小の胸および小さな胸は、「身体的に魅力的である」を除けば、中程度の胸と魅力評価の程度は異ならなかった。以上をまとめると、身体的魅力については、中程度の胸が最も高く評価されるが、それ以外の魅力（恋愛相手としての魅力、結婚相手としての魅力、人間としての魅力）については、大きな胸および特大の胸の女性が低く評価されるということが示された。

これらの結果のうち特に興味深い知見は、「結婚相手としての魅力」と「恋愛相手としての魅力」が同じ傾向で評価されていたことである。次に述べるように胸の大きな女性は性的に奔放である（「誰とでもセックスをしそう」というイメージを持たれやすい。とすれば、「結婚相手として魅力的でないが、恋愛相手としてなら魅力的である」といった形で、結婚相手としての魅力評価と恋愛相手としての魅力評価が異なる形になることも考えられる。実際 Kościński, et al. (2020) ではそのような結果が得られている。しかし本研究ではそのような結果は得られなかった。このような相違の説明としては、表現の違いと文化の相違が考えられる。前者の表現については

Table 1 結果のまとめ

質問内容	区分	胸の大きさに関する結果
1 恋愛の相手として向いている	魅力評価	特小 = 小 = 中 > 大 > 特大
2 結婚の相手として向いている	魅力評価	特小 = 小 = 中 > 大 > 特大
3 身体的に魅力的である	魅力評価	特小 < 小 < 中 > 大 > 特大
4 人間として魅力的である	魅力評価	特小 = 小 = 中 > 大 > 特大
5 子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう	生殖イメージ	特小 < 小 < 中 = 大 > 特大
6 母性がありそう	生殖イメージ	特小 = 小 < 中 = 大 = 特大
7 誰とでもセックスをしそう	生殖イメージ	特小 < 小 < 中 = 大 = 特大
8 頭が良さそう	その他のイメージ	特小 = 小 > 中 > 大 > 特大
9 気が強そう	その他のイメージ	特小 = 小 = 中 = 大 = 特大

注) >および<は水準間に5%水準で有意な差が見られたこと、=は5%水準で水準間に有意な差が見られなかったことを意味する。

Kościński, et al. (2020) では“lover”の語が用いられており、これは場合によっては「一夜限りの関係」も含みうる表現である。それに対して本研究で用いた「恋愛」という表現には、短期的な関係は含みうるにせよそこまでの行きずりの関係性は含意されにくいように思われる。このような表現の相違が結果の相違につながった可能性が1つ考えられる。

また別の可能性としては文化の相違もあり得る。つまり、結婚相手に対してであれば「誰とでもセックスをしない」貞淑さを求めるが、恋愛関係に留まる相手に対してはそのような貞淑さを求めない文化であれば、性的に奔放な相手に対する魅力評価は結婚相手と恋愛相手で大きく異なるであろう。Kościński, et al. (2020) が調査を行った文化ないし社会（ポーランド）がそのような性規範を有するものであるかは不明確であるが、何らかの文化規範ないし性規範が影響を及ぼした可能性も考えられる。今後は文化間の比較を行うことが有益であろう。

4.2 生殖に関するイメージについて

これらのイメージについては、個別のイメージごとに多少傾向が異なっていた。つまり、「子どもを産んだり育てたりすることに向いていそう」と「母性がありそう」については、中程度の胸が高く評価される傾向があり、特小および特大の胸については低く評価される傾向があった。他方で、「誰とでもセックスをしそう」というイメージについては、胸の大きさが中程度以上だと小および特小の胸と比べて高く評価されていた。

前者2つの知見は進化心理学の観点から比較的上手く説明することができる。つまり、上述のように進化心理学は女性の魅力を子孫ないし遺伝子を残せる可能性を示唆する程度という観点から理解する。このような理解からすれば、大きすぎる胸はその維持に資源を必要とするため (Gangestad & Scheyd, 2005), 「子どもを産んだり育てたりすることに向いている」とは思われず、それと関連して「母性がある」とも思われぬのだと思われる。

他方でこれも上述の通り、胸が大きいほど性的に奔放であるというイメージがもたれる理由は進化心理学の観点からは非常に説明しづらい。この知見は先行研究でも見出されていた知見であり (Furnham et al., 1998; Kościński et al., 2020), 本研究ではこの知

見が日本においても再現されるかを確認するために行われたものであるため、なぜ胸の大きな女性は性的に奔放であるというイメージがもたれるのかという問題にはアプローチできていない。今後はこの問題を解決するための調査を行う必要がある。

4.3 その他のイメージについて

「頭が良さそう」というイメージについては、特小と小は、中程度以上の胸の大きさと比べて高く評価されていた。他方で「気が強そう」というイメージについては、胸の大きさごとに有意な差はないことが示された。

「頭が良さそう」というイメージについては、「誰とでもセックスをしそう」というイメージをちょうど逆転したような分布の形状となっており、何らかの関連性が示唆される場所である。今後はこれらの評価の背後にある要因を検討していくことが、上述の問題を解決する糸口になるかもしれない。

5 結論

以上の結果を異なる観点から要約すると、胸の大きな（特大および大）女性は、「誰とでもセックスをし」「頭が良くない」と思われやすく、その他の女性と比べて性的な魅力を高く評価されることもない。逆に、胸の小さな（特小および小）の女性は、「誰とでもセックスをすることはなく」「頭が良い」と思われやすく、魅力を特段低く評価されることは少ない。最後に、中程度の胸の人は、胸が小さな人ほど「頭が良さそう」とは思ってもらえないが、胸が大きな人ほど「誰とでもセックスをしそう」とは思われず、「結婚の相手」「恋愛の相手」としても身体的にも最も魅力的であると思われる。以上の結果からすれば、大きな胸と小さな胸にはそれぞれデメリットがあり、それらを回避しつつ、最も魅力的と評価される中程度の胸が最も「得」である。逆に言えば、巨乳については魅力的と評価されると同時にネガティブなイメージが付与されるという「巨乳評価の二元性」は本研究ではそもそも見られず、巨乳はネガティブなイメージが付与されるというデメリットのみを享受していた。したがって、巨乳は得ではない。これらが本研究の第一の結論である。

この結論を別の観点から述べると、現代の日本社会には大きな胸の人に対する偏見が存在する、とい

うこともできる。今後はそのような偏見を低減する手法を考案していく必要がある。

また第二の結論として、胸の大きさの影響力の大きさについても述べておくべきである。つまり、胸の大きさごとの魅力・イメージの評価は非常に大きなものであり、たとえば「身体的に魅力的である」という評価の中と特大間の効果量は $d = 1.37$ にも達していた。この結果は、女性の魅力を判断する上で胸の大きさは極めて重要な役割を果たしていることを示唆している。これが本研究の第二の結論である。

引用文献

- Cornelissen, P. L., Hancock, P. J. B., Kiviniemi, V., George, H. R., & Tovée, M. J. (2009). Patterns of eye movements when male and female observers judge female attractiveness, body fat and waist-to-hip ratio. *Evolution and Human Behavior, 30*, 417–428.
- Dixon, B. J., Duncan, M., & Dixon, A. F. (2015). The role of breast size and areolar pigmentation in perceptions of women's sexual attractiveness, reproductive health, sexual maturity, maternal nurturing abilities, and age. *Archives of Sexual Behavior, 44*, 1685–1695.
- Dixon, B. J., Grimshaw, G. M., Linklater, W. L., & Dixon, A. F. (2011a). Eye-tracking of men's preferences for waist-to-hip ratio and breast size of women. *Archives of Sexual Behavior, 40*, 43–50.
- Dixon, B. J., Vasey, P. L., Sagata, K., Sibanda, N., Linklater, W. L., & Dixon, A. F. (2011b). Men's preferences for women's breast morphology in New Zealand, Samoa, and Papua New Guinea. *Archives of Sexual Behavior, 40*, 1271–1279.
- Funnham, A., Dias, M., & McClelland, A. (1998). The role of body weight, waist-to-hip ratio, and breast size in judgments of female attractiveness. *Sex Roles, 39*, 311–326.
- Gangestad, S. W., & Scheyd, G. J. (2005). The evolution of human physical attractiveness. *Annual Review of Anthropology, 34*, 523–548.
- Gründl, M., Eisenmann-Klein, M., & Prantl, L. (2009). Quantifying female bodily attractiveness by a statistical analysis of body measurements. *Plastic and Reconstructive Surgery, 123*, 1064–1071.
- 変態学研究所 (2020). 二次元の女性を含む広告に関する意識—「炎上」した広告を題材に— Research Report, 3. (http://institute-of-hentai-studies.org/pubs/s003_report.pdf)
- J-Cast ニュース (2017). 「大きな胸」を持つ女性の悩みを訴える投稿 ネット上で話題に (<https://news.livedoor.com/article/detail/13909536/>)
- Kleinke, C. L., & Staneski, R. A. (1980). First impressions of female bust size. *Journal of Social Psychology, 110*, 123–134.
- Swami, V., & Tovée, M. J. (2013a). Men's oppressive beliefs predict their breast size preferences in women. *Archives of Sexual Behavior, 42*, 1199–1207.
- Swami, V., & Tovée, M. J. (2013b). Resource Security Impacts Men's Female Breast Size Preferences. PLoS ONE, 8, e57623 (<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0057623>)
- Tooby, J., & Cosmides, L. (2015). The theoretical foundations of evolutionary psychology. In D. M. Buss (Ed.), *The Handbook of Evolutionary Psychology. Volume 1: Foundations* (2nd ed., pp. 3–87). New Jersey: John Wiley and Sons.
- Zelazniewicz, A. M., & Pawlowski, B. (2011). Female breast size attractiveness for men as a function of sociosexual orientation (restricted vs. unrestricted). *Archives of Sexual Behavior, 40*, 1129–1135.